

京都市北区小野郷、中川地区 農のある暮らしづくり事業

交流企画、地域調査、ワークショップ、先進地視察、広報など5つのテーマで取り組み広がる



尾松代表の開会あいさつ 市民農園の視察（右上） 残雪の大森（右下）



農業・農村文化交流企画は、2013年11月17日、「第2回 農のある暮らし、地域の食文化を考える企画」、2014年1月25日、「第3回 地域の魅力体験、文化の発見」のテーマで開催されました。

地域調査は、2013年11月から小野郷、中川地域の住民のみなさんを対象におこなわれました。ワークショップは「地域の良さ、地域資源や地域振興のポイントを発見する」ために3回取り組まれました。NPO会員、一般市民、芸術家や地域の活性化に取り組んでいる専門家、地元の方々等がいっしょになった取り組みに広がってきています。参加者からは、「北山杉の美しさと地域の歴史に感動した」、「収穫体験、もちつき体験、北山杉の伐採体験」など楽しかった、との感想が多く寄せられました。

CONTENTS

- ・農のある暮らしづくり事業の取り組み・・・1～4
- ・お知らせと案内（3月の企画）・・・6～7
- ・農耕文化研究会（小豆企画）開催・・・5
- ・総会開催告示・・・8

ホームページ： NPO法人日本都市農村交流ネットワーク協会 <http://gtnet.sakura.ne.jp/>

1、農業・農村文化交流企画

11月17日、65名が参加し、「第2回 農のある暮らし、地域の食文化を考える」をテーマに開催

北山杉の里で秋の気配を感じながら朝市での買い物、新米羽二重の餅つき体験、北山杉の伐採体験、さつま芋などの収穫体験など、「農のある暮らし、地域食文化を考える交流と体験の集い」が開催されました。

開会にあたり、大森市民農園振興協議会尾松数憲代表より、「大森地域の振興に向けて、市民農園を中心とした地域の活性化の取り組みを地域の方々と交流し、農業・農村への関心を高めながら進めていきましょう。今、農のある暮らし事業は5つのテーマで事業をおこなっている」と、それぞれの事業の紹介がありました。

京都北山杉の里総合センター松本吉弥さんからは、北山杉や農業の厳しい状況の紹介の後、「今回、大森市民農園振興協議会の事業を通して、地域の振興につなげたい。大森地区の中心地にできた大森市民農園を拠点に、たくさんの方々に市民農園を通して農業の魅力を知っていただき、都市住民との交流をはかりたい」とのあいさつがありました。

朝市を見学し、地元産野菜を購入しました。交流では、新米羽二重の餅つき体験とつき立てのお餅をいただき、参加者は「美味しい」と大満足の様子。北山杉の伐採体験では、鋸を使って木を伐ったり、伐採の前作業となる北山杉へのロープ掛けを体験しました。

地元の地域朝市の女性の方々に作っていただいた昼食を食味し、午後は、大森地区の視察、市民農園でのさつま芋などの収穫体験がおこなわれました。

体験を通して、大森地域の良さを発見し、市民農園の意義や役割を考える場となりました。



松本吉弥さんがあいさつ



羽二重もち米でおもち搗き



餅つき体験と出来立てのお餅をいただく



北山杉の伐採、ロープ掛け体験



大森市民農園でさつま芋の収穫体験

.....
第3回は1月25日、40名が参加し、囲炉裏を囲んで「地域の歴史や文化、魅力を知り、発見する。雪の大森地区の散策を楽しむ」をテーマに開催されました.....

風情ある雪景色の大森サンバレーで開催されました。開会にあたり、大森市民農園振興協議会尾松数憲代

表より、大森市民農園振興協議会の活動が紹介され、後、地元協議会を代表して片山惣二さんから、地域の紹介、今回の事業に期待します、とあいさつがありました。



大森地域の歴史、文化、地域について語る寺谷さん



講演する
森下さん



鍋を囲み熱心な討論と交流
が行われました

○企画—1 他地域の地域振興を学ぼうと「事例学習会」

では、和歌山県の「田辺市上秋津地区の取り組み事例」と題して、京丹後市「久美浜丸ごとプロジェクト」マネージャーの森下裕介さん（農学博士）を講師に迎え講演をいただきました。

森下さんは、秋津野ガルテンは、小学校の廃校の後を活用し、農業法人(株)秋津野が運営するグリーン・ツーリズム施設で、レストラン棟、体験棟、宿泊棟に分かれ、それぞれ地域資源を活かし、地域づくりと経済活動の両立を目指すことを目的とした取組みが行われている、と紹介し、

①スローフードランチがバイキング形式で、いただけるレストラン棟が2008年にオープンした。地産地消の推進と、地位の女性の雇用創出の場となっている、②体験棟のお菓子体験工房『バレンシア畑』では、地元のカンキツで作るスイーツの販売、新商品開発や加工体験ができ、農産物直売所『きてら』の商品を使用することにより秋津野ガルテンとの連携をはかっている、③地域づくり学校は、秋津野の地域づくりのノウハウを共有し、全国から地域づくりの課題を持つ人を募り、人材育成および互いに新たな地域づ

くりを考える場として、2008年から開講された、など、注目すべき内容の紹介をいただきました。

○企画—2：「地域の魅力体験、地域の文化、良さを発見する」をテーマに、地元で生まれ、育ち、83歳を迎えた寺谷儀平治が、平安の時代から現在まで、木材で都を支えた歴史や木材価格の低迷と、農業環境の悪化で、地域が衰退をしてきている中で、もう一度、今回の事業を通して地域振興を進めたい、と事業への期待を語られました。

○企画—3 囲炉裏を囲んで地域の農産物を使った「大森鍋」を頂きながら参加者から地域振興についての意見を出し合いました。そのあと、残雪の景色を見ながら、春の訪れを体感し、大森地区の散策を楽しみました。最後に、中川地域に入り、歴史の香りがする街並みや、500年の年輪を刻むであろう北山杉の母樹や八幡さんを拝観し、帰路につきました。

2、集落調査と分析

市民農園を拠点にした地域住民の皆さんの地域活性化への願いや、意見等を調査し、活性化への課題をあきらかにしようと、11月～12月に小野郷エリア、中川エリアで取り组まれました。調査の中から、地域の状況や地域振興への意識が浮かび上がってきています。協議会では、内容分析をおこない、それぞれの課題にそった分析と「政策化」をおこないます。

3、ワークショップ

地域の活性化に向けて、地域の資源や良さを発見し、どのような地域力を使い、それを形にして進めていくのかを考えていくワークショップ（共同作業）を、大森市民農園管理組合のみなさんとNPOメンバーによって、

3回にわたって開きました。

第1回目のワークショップ（10月17日）は、大森、中川地域のマップを使って地域資源の発見や歴史の共有を行い、地域の状況について意見交換しました。

第2回（10月31日）は、「地域資源の具体的な書き出しを行うこと」を目標に、1回目のマップや「第1回文化交流企画参加者の声」にあるよそ者が見た大森、中川地域の良さを材料にしながら、「アピールポイント・課題」の掘り起しをおこなうことで、地域資源を“見える化”しました。

第3回（11月21日）は、「農のあるライフスタイル～スモールファーマーズの取り組みから見えるもの」をテーマに、特定非営利活動法人スモールファーマーズ理事長岩崎吉隆氏を講師に迎えて話題提供をしていただき、意見交換をおこないました。ライフスタイルとしての「農」への期待の高さを実感し、市民農園の方向性と課題への対応策を出し合いました。



ワークショップのようす

4、地域の活性化をおこなっている「先進地域の事例調査」の視察

木材で地域振興をおこなう岡山県真庭市を視察

1. 視察の目的

岡山県真庭市は林業や農業が盛んで、バイオマスタウン構想を20年も前に打ち出し、エネルギーの地産地消に取り組んでいます。市はどこの地域でもある地域資源をうまく活用し、バイオマスタウン視察ツアーやさまざまな観光商品を作り出し、地域活性化がおこなわれています。現地ですべて実際にバイオマスタウンツアーを体験し、参考にする目的で、11月7日、25名で視察をおこないました。

市は、岡山県の北中部に位置し鳥取県と境を接する市で、面積は県内自治体の中で最大。勝山は、古い城下町の家並を保存しながら豊かな森と自然との共存による暮らしをしてきた地域です。

石油を中心にしたエネルギー政策の変化もあり、林業や製材業を取りまく環境は厳しい状況に陥っていましたが、これを打破する目的で若者、経営者などが1992年「21世紀の真庭塾」という組織を立ち上げ、バイオマスタウンの推進力となって活動を牽引してきました。市ではユニークな木材利用の仕方や新しい技術の開発で、バイオマス（植物などの生物から生まれた再生できる資源）をキーワードにした産業が盛んになってきています。里山の資源を有効活用することでコミュニティーの復興が可能であるとする『里山資本主義』藻谷浩介著、NHK広島取材班 角川書店 の中でも紹介されました。



勝山地区・旧城下町の保存（のれんが有名）



材木の集積場、チップ工場、チップ燃料によるハウス栽培（右写真）、100%チップ暖房の市役所などを視察しました。

5、大森市民農園を紹介する「案内チラシ」、

「ポスター」ができました。広報にご活用ください。



農耕文化研究会（小豆企画）を開催（平成 26 年 1 月 18 日）

大納言小豆の魅力を堪能！！

農耕文化研究会の小豆企画「大納言小豆、楽しく・美味しく魅力を探る！」を、平成 26 年 1 月 18 日（土）、京都テルサ（京都市南区）で開催しました。一般市民・NPO 会員ら 30 名が参加し、大納言小豆の魅力・美味しさを存分に堪能しました。参加者からは「小豆のでき方を初めて知り勉強になった」、「大納言小豆の粒の大きさ、味の良さに驚いた」、「他の京都府の特産農産物についても、同じような勉強会を開催してほしい」との声が寄せられました。



会場風景（高橋副理事長の開会あいさつ）

<講演 演>

京都府農林センター作物部の岩川秀行さんから、「京都府の小豆栽培のいま」と題して、小豆の生態や京都府内での小豆栽培の実態、京都府での品種改良や省力化（機械作業化）の取り組みについて講演をいただきました。

馬路大納言活性化委員会の畑博さんから、「馬路大納言小豆で地域活性化」と題して、日本一と言われる馬路大納言小豆の素晴らしさと栽培上のご苦労や、「おいしい食の応援隊」（京都府南丹広域振興局）を活用した消費者の栽培体験と消費者交流への取り組みについてお話していただきました。



講演する岩川さん（左）と畑さん（右）

<お菓子作り体験>

2つの講演後、小豆を使ったお菓子作り体験として、「手作りの岡田屋」の岡田アサコさん（NPO 会員）の指導で、おはぎと桜餅を参加者全員で作りました。

調理体験後、自分で作ったおはぎ・桜餅と、馬路大納言小豆の粒の大きさと香りの良さを味わって欲しいと岡田さんが別に調理していただいた水無月を、淹れたての宇治茶でいただきました。

京都府の特産品である大納言小豆を取り上げ、専門家と生産者からの講演による座学、調理体験を組み合わせることで、参加者からは大変勉強になったとの声を多くいただきました。今後も同様の企画を実施できればと考えています。



調理体験風景



完成した桜餅とおはぎ

お知らせ・・・会員のみなさまへ「アンケート」のお願い

理事会では当協会の中長期の「課題や方向」を検討するために、会員の皆さんから御意見や希望を聞くことにしました。そのための『アンケート』用紙に、御記入いただき、事務局に御返信下さい。内容を整理し、今後の活動や事業に生かしていきます。アンケート結果は、会報などでお知らせします。

第4回 農村・農業体験交流会企画

利用者がふえ、交流と楽しみ一杯の魅力ある市民農園を考える

「市民農園サミット」のご案内

【企画の趣旨】

今日、市民農園は、都市と農村の交流を進める目的で、2005年に施行された改正特定農地貸付法により、全国的には4092カ所と広がっています。

市民農園は都市の住民が、レクリエーションをかねて、自家消費野菜・花の生産、高齢者の生きがいくくり等の多様な目的で、小面積の農地を利用して野菜や花を育てるための農園として注目されています。京都市北区大森地区は、高齢化、過疎化が進む中で、

平成23年に、地域の活性化の拠点として集落の中心地に市民農園を開設し、都市住民の方々と交流し、地域の活性化をはかろうと取り組みが始まっています。この地区を対象にしなが、市民農園の役割や魅力を考え、かかえる課題をどのように解決していくかをご一緒に考える「市民農園サミット」を開催します。

この地区は古くからの神社や仏閣があり、川端康成の小説「古都」の舞台にもなったところです。

【日時】 2014年3月29日（土）午前10時30分開会～午後3時、後、中川地区の見学

【会場】 京都北山杉の里総合センター（京都市北区中川川登74 TEL:075-406-2212）及び大森地区

（集合9時30分・・烏丸御池角北・京都国際マンガミュージアム前からマイクロバスを出します）

【企画】

一、開会のあいさつ

一、市民農園の役割と農のある暮らし、魅力ある市民農園づくりのためには何が必要か

(1) 大森市民農園開設の目的と経過、課題について 大森市民農園管理組合代表 和田 泰行

(2) 楽しく人が集まる市民農園の事例と課題報告

○京都府舞鶴市瀬崎 滞在型市民農園・ふるるファーム 代表 秋安 俊豪

○京都市山科区 農業体験農園・すこやかファームおとわ 代表 溝川 長雄

(3) 討論：テーマ「魅力ある市民農園にするためには何が必要か！」

コーディネータ：河村律子（日本都市農村交流ネットワーク協会理事、立命館大学准教授）

一、昼食：地域朝市女性会のみなさんに地域の素材を使って作っていただきます。お楽しみに

一、散策：春の山野草の摘み取り、映画「古都」の舞台・中川地区の散策と旧家の見学

【参加費用と申し込み】 一人1300円（昼食代他諸費用代等）、申し込みはFAX075-406-2823、メールで受け付け

◎申し込み要綱（チラシ同封）◎締切日：3月25日（火）、会場、食事準備のため必ず申し込みをください

◎問い合わせ：協会事務局：吹田 電話 080-3853-5682、メール：tomohisasuita@gmail.com



.....
会員募集・会費納入のお願い 振込先口座名：日本都市農村交流ネットワーク協会

年会費 ・正個人会員 2,000円、 ・正団体会員 10,000円、

・賛助個人会員 1,000円、 ・賛助団体会員 5,000円、

○郵便局・口座番号 00990-9-225932、○京都銀行下鴨支店口座番号 普通 3281594

第1回「六次産業化」を考えるシンポジウム（連続講座）を開きます

六次産業化は、農業農村に何をもたらすのか。その目的と意義を先進事例から深める

主催：NPO日本都市農村交流ネットワーク協会 後援：農林水産省近畿農政局 京都府

六次産業化・地産地消法が2011年3月に施行され3年。その意義や内容、仕組みについて知り、具体的な先進事例について検討します。その中から農業者のやる気、所得の向上、地域の活性化、雇用の創出、地産地消などがどのように始まってきているのか、六次産業化によって農業者はフードシステムの指導権をにぎっていきけるのか、などを考えます。この企画は、農林水産省近畿農政局、京都府の後援をいただき、昨年12月高橋信正編著『「農」の付加価値を高める六次産業化の実践』（筑波書房）が出版されたのを記念し、連続講座企画で開催します。尚、編著者は、日本都市農村交流ネットワーク協会の副理事長です。

【開催日】 2014年3月22日（土）午後2時～5時、終了後、夕食懇親会

【会場】 京都生協 せいきょう会館4F会議室（京都市中京区夷川通鳥丸東入西九軒町291）

【企画次第】

I 開会のあいさつ

II 講演会

司会：中村貴子（NPO協会 理事）

1) 六次産業化とは

(1) 六次産業化の意義、内容

講師：高橋信正（NPO協会 副理事長）

(2) 六次産業化法の目的とめざすものは何か

講師：小林俊夫（栃木県六次産業化推進員）

2) 集落の活性化、雇用の創出、地産地消の運営を先進事例から見る

(1) 事例1 「地産地消と六次産業化の接点」

講師：宮井浩志（福井大学産官学連携本部）

(2) 事例2 「“ゆずが育む” 地域産業の形成」

講師：大西敏夫（和歌山大学経済学部教授）

III 意見交換・質問、まとめ、閉会

【参加費及び定員】 定員50名、参加費1,000円、学生500円（講座運営費、資料代、会場費等）

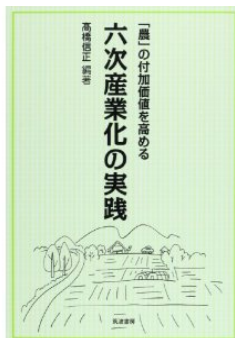
申し込み締切日：3月18日（火）、【申し込み・問い合わせ】詳細は案内チラシをご覧ください。

御 紹 介

高橋信正編著『「農」の付加価値を高める六次産業化の実践』

（筑波書房 2500円+税）が出版されました。

今日、農業振興策の一つとして注目されている六次産業化の本が、協会の副理事長である高橋信正さんの編著で出版されました。



2011年からはじまった六次産業化法は、農産物に新たな付加価値をつけ、農村の活性化をはかろうとする政策です。農業者が主体者となって、新しいフードシステム（一次産業×二次産業×三次産業＝六次産業）を興していこうとするものです。本書は、26名の研究者等が、①六次産業化法についてわかりやすく解説し、②成功してきている事例を分析し解説をおこない、③今後、六次産業化が向う姿を浮彫りにしています。執筆には、高橋信正編著を始め、中村貴子理事、尾松数憲副理事長、丸一 浩元理事、古塚秀夫（会員）さんら協会の理事、会員ら関係者も参加しております。是非、ご購入ください。

NPO 法人日本都市農村交流ネットワーク協会
第 8 回（2014 年度）総会開催告示

理事会は、下記の通り、第 8 回総会を告示します。

・・・・・・・・開催要項・・・・・・・・

一、日時：2014 年 5 月 18 日（日）午前 10 時 30 分～12 時

一、会場：京都北山杉の里総合センター（京都市北区中川川登 74 TEL075-406-2212）

＜会場へは、9 時 30 分発で、烏丸御池の「京都国際マンガミュージアム館」前からマイ
クロバスを出します。約 50 分の道程です＞。

一、総会議事次第 ○開 会 （10：30）

（1）報告

○小野郷・大森地域の歴史と市民農園を中心にした地域振興の取り組み

○京都北山杉の歴史と今日の課題

（2）総会議案

1、開会あいさつ

理事会代表あいさつ

2、来賓紹介及びあいさつ（予定）

農林水産省近畿農政局 京都府

3、議事提案と審議及び採決

第 1 号議案 2013 年度事業報告及び決算報告の件 監事会報告

特別報告：新規事業：「平成 25 年度『農』のある暮らしづくり事業」

（京都市北区大森地域「市民農園振興協議会」の取り組み）

第 2 号議案 2014 年度事業計画及び予算案の件

第 3 号議案 議案効力発生の件

4、議長解任と閉会のあいさつ（12：00）

総会終了後 大森地区（サンバレー）に移動

2014 年度「第 1 回 農業・農村文化交流企画」（12：30～14：30）

1、大森地区市民農園及び歴史的景観、周辺施設の視察

2、昼食交流・懇談会（会場：囲炉裏のある旧家「大森サンバレー」）

3、交流、懇談

3、北山杉の里 中川地区の散策（ノーベル賞作家 川端康成『古都』の舞台）

編集後記

会報発行も今回で第 16 号を迎えました。今年度は、「平成 25 年度『農』のある暮らしづくり交付金事業（滞在型市民農園開設に向けた合意形成と市民農園の利用率向上を図る）」の事業が大きな取り組みになりました。この 9 月 20 日から予算を伴い、5 つのテーマで進んできています。今回は、その動きを中心に編集しました。会員の皆様には諸企画の取組状況をリアルタイムにお知らせすることにより積極的にご参加いただけるようにホームページの更新を含めて情報発信を強めていきます。会員のみなさまの「寄稿」をおまちしております。どうかよろしくお願いたします。御連絡は事務局吹田までお願いします。（E-mail: tomohisasuita@gmail.com）